

令和6年度（補正）阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクト地域協議会等の開催運営業務

本業務は阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクトの効果的な推進を図ることを目的とし、これまでの関連指標データの収集整理や課題抽出などを行い、「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム(以下「SUP」)2025」の総括案を作成した。また、また、実務担当者会議の開催・運営を行い後続プログラムに当たる「SUP2030」の目標・指標・方針などを検討し骨子案を作成した。その後、これらの案を主な議事とした地域協議会の開催・運営を行った。

国立公園満喫プロジェクト・ステップアッププログラムとは

- 2016年3月に政府が「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定

「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたくなる日本へー」【概要】
「観光先進国」への新たな国づくりに向けて、施策や訪日外国人旅行者数・消費額などの2020年及び2030年までの目標を取りまとめた国家戦略
目標（抜粋）：2030年の訪日外国人旅行者数6,000万人

この観光ビジョンの柱の一つに国立公園が位置づけられている
(施策の1つに「国立公園の『ナショナルパーク』としてのブランド化」)



- これを踏まえ同年、環境省が「国立公園満喫プロジェクト」(以下「満喫PJ」)を立ち上げ、本省で満喫PJの取組方針(目標等含む)を、先行的・集中的に取組を行う8ヶ所の国立公園で「ステップアッププログラム(以下「SUP」)2020」(目標年2020年)を策定

国立公園満喫プロジェクト【趣旨】

国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図ります。

- 1.日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の訪客を促進します(世界水準のディステネーションを目指す)。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、自然を満喫できる上質なツーリズムを実現します。
- 2.地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境への保全へ再投資される好循環を生み出します。

ステップアッププログラム【概要】

各国立公園(現在は13公園)で策定される、国立公園満喫プロジェクトを推進するための目標や取組方針等を取りまとめた各国のプログラム

- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行

当社の阿蘇くじゅう満喫PJ関連業務の受託は
SUP2025策定の翌々年の2022年度から

- 2021年以降も満喫PJの継続決定、本省でその取組方針(目標等含む)、13ヶ所の国立公園で「SUP2025」(目標年2025年)策定

現在はココ

- 2026年以降も満喫PJの継続決定、本省でその取組方針(目標等含む)、各公園で「SUP2030」を策定

阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2030 の策定方針

SUP2030策定の目的

- ・「世界水準のディステネーション」に向けて、阿蘇くじゅう国立公園の保護と利用の好循環を推進するべく、主に公園利用(観光)の分野において、満喫プロジェクトとして2030年までに取り組むべき事項を整理する。

⇒「阿蘇くじゅう国立公園地域協議会」において、国・県・各市町村や関係機関の取組状況を共有・評価して、満喫プロジェクトのPDCAサイクルを回していく。

SUP2030の策定方針(案)

- これまでの満喫プロジェクトの取組(SUP2020・SUP2025)を継承しつつ、昨今の社会情勢や観光動向の変化(オーバーツーリズム・公園内消費額の低迷・人口減少社会など)を踏まえ、必要な取組を追加する。
- 単に入込観光客数や観光消費額などを重視して観光産業の発展のみを目指すのではなく、日本の地域制国立公園として、草原再生や山岳保全など自然環境保全への還元や地域社会・経済への貢献も視野に入れた計画とする(=「三方良し」)。
- 本国立公園はエリア毎に観光資源の特徴や地域づくりの方針が多様であるため、より解像度高く取組が進められるようにエリア毎の課題や取組方針を新たに設定する。
- 他方で、二次交通の改善や情報発信など、エリア間が連携して実施するべき取組も併せて整理する。
- 各主体が事業推進に向けて予算請求する際の根拠資料の一つにできるように設える。

最新情勢を踏まえた改訂のほか、分かりやすさの観点からも必要なマイナーチェンジを行う

本省の「満喫PJ」の2026年以降の取組方針 策定が後倒しとなったため、阿蘇くじゅう国立公園ではSUP2030を2025年度中に策定せず、2026年度も引き続き検討を行っていくこととした(秋頃の策定を想定)。

阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2030 骨子の取組方針

施策体系

(1) 基本取組 (2) 重点取組 (3) エリア別方針 の3層で構成

(1) 基本取組：3つの目標像の達成に向けて、今後5年間で公園内外の各関係機関が連携して取り組む事項を網羅的に整理

(基本的にはSUP2025で位置づけられた取組を継続採用しているが、最新の情勢を踏まえて必要な取組を追加するとともに、より分かりやすい体系へと再構成)

(2) 重点取組：2030年までに取り組むべき事項として重要度や緊急度の高い取組を分野横断的に整理(検討中)

※当初は既存の3部会(阿蘇地域草原利用部会、阿蘇地域トレイル利用部会、くじゅう地域オーバーユース対策部会)の取組を想定していたが、現在、草原利用部会以外の2部会が部会そのものの在り方や方針等を検討しているため、保留中

(3) エリア別方針：エリア毎に多様な公園利用が展開されている本公園の特徴を鑑みて、基本取組1)~4)の取組について、7つのエリア毎に具体的な取組方針を整理

(基本取組5)~11)の取組については、公園全体で検討・推進していくべき事項であるため「(1)基本取組」に共通事項として整理

(1) 基本取組

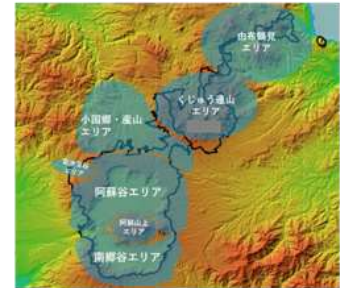
- 1) 自然観光資源の保全(保護と利用の好循環の推進)
- 2) 魅力的/上質な観光コンテンツの造成
- 3) 利用拠点・滞在拠点の適正化/上質化
- 4) 様々な●●●ツーリズムへの適応・推進
- 5) 災害対策の万全化
- 6) 地球環境への配慮(SDGsの推進)
- 7) 公園内の二次交通の充実化の検討
- 8) 広域観光圏の形成
- 9) 地域資源の活用促進
- 10) 旅マエ・旅ナカにおける観光客へのPRや必要な情報発信の強化
- 11) 産官学金の連携、ガバナンスの強化

(2) 重点取組

(検討中)

(3) エリア別方針

阿蘇谷エリア	菊池溪谷エリア
南郷谷エリア	くじゅう連山エリア
阿蘇山上エリア	由布鶴見エリア
小国郷・産山エリア	

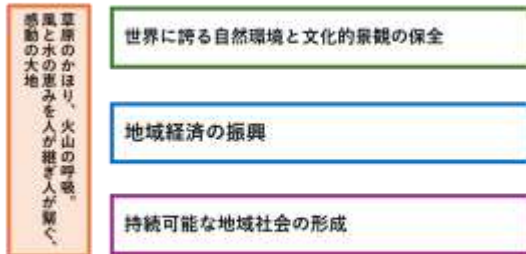


阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2030 骨子の進捗管理および効果検証

目標

<コンセプト>

<目標像>



目標指標

SUP2030の成果を端的に表す、最もコアとなる指標(アウトカム)

利用者負担の合計金額
公費利用者数(国内外)
公園内宿泊者数
公園満足度
公園リピーター率
公園利用者の観光消費額
地域人口(市町村別)

基本取組

- 1) 自然観光資源の保全
- 2) 魅力的/上質な観光コンテンツの造成
- 3) 滞在拠点・利用拠点の適正化/上質化
- 4) 様々な●●●ツーリズムへの適応・推進
- 5) 災害対策の万全化
- 6) 地球環境への配慮
- 7) 公園内の二次交通の充実化の検討
- 8) 広域観光圏の形成
- 9) 地域資源の活用促進
- 10) 国立公園へ誘導するPRの推進、観光客への情報発信
- 11) 産官学金の連携、ガバナンスの強化

取組指標

各取組の進捗状況を表す指標(アウトプット)

利用者負担の仕組みを導入すべきエリアの内の導入割合
ガイドライン基準に適合したガイドツアー件数およびその利用者数
ガイド講習会の実施回数と参加人数
主要利用拠点の利用者数およびその標準偏差
ガイドライン基準に適合した宿泊施設数
各種公式SNSにおける投稿件数&インプレッション数

※従来設定されていた「通景伐採等の実施件数」など、定量的に把握しても評価が難しい or 定量的な把握が難しい事項については、各実施主体の取組状況を定期的に把握して定性的に評価することとする。

② 重点取組に係るモニタリング指標

(検討中)